

## 1. 消化器内科／血液内科／膠原病内科

### 1) 外来（新患・再来）患者延数

外来（新患）患者延数	1,711 人	外来（再来）患者延数	34,306 人
------------	---------	------------	----------

### 2) 外来（新患）疾患名（重要な疾患名を適宜）と症例数（比率）

1	大腸腫瘍	(21%)	6	関節リウマチ	( 5%)
2	胃癌	(10%)	7	食道癌	( 5%)
3	慢性肝炎	(10%)	8	炎症性腸疾患	( 5%)
4	肝癌	( 6%)	9	十二指腸腫瘍	( 3%)
5	膵臓腫瘍	( 6%)	10	白血病	( 2%)

### 3) 外来（再患）疾患名（重要な疾患名を適宜）

1	大腸癌	6	関節リウマチ
2	胃癌	7	潰瘍性大腸炎
3	食道癌	8	クローン病
4	慢性肝炎	9	白血病
5	肝細胞癌	10	多発性骨髄腫

担 当 医 師 人 数	平均 8 人／日	看 護 師 人 数	3 人／日
-------------	----------	-----------	-------

### 4) 専門外来名・開設日

上部消化管疾患外来	月・午後
下部消化管疾患外来	月木・午前
肝・胆・膵疾患外来	月木金・午前
血液疾患外来	月火水金・午前、月水木金・午後
免疫疾患外来	月火水・午前、月火木・午後
心療内科外来	火水・午後
ピロリ外来	月木・午後

### 5) 専門医の名称と人数

日本内科学会指導医	8 人
日本内科学会総合内科専門医	16 人
日本専門医機構内科専門医	5 人
日本内科学会認定内科医	20 人
日本消化器病学会指導医	8 人
日本消化器病学会消化器病専門医	20 人

日本血液学会指導医	2 人
日本血液学会血液専門医	3 人
日本肝臓学会指導医	1 人
日本肝臓学会肝臓専門医	5 人
日本心身医学会研修指導医	1 人
日本リウマチ学会リウマチ指導医	2 人
日本リウマチ学会リウマチ専門医	4 人
日本消化器内視鏡学会指導医	10 人
日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医	21 人
日本消化器内視鏡学会上部消化管内視鏡スクリーニング認定医	1 人
日本消化器内視鏡学会大腸内視鏡スクリーニング認定医	1 人
日本大腸肛門病学会指導医	1 人
日本大腸肛門病学会大腸肛門病専門医	1 人
日本輸血・細胞治療学会認定医	1 人
日本臨床腫瘍学会指導医	1 人
日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医	1 人

日本プライマリ・ケア連合学会指導医	2 人
日本プライマリ・ケア連合学会プライマリ・ケア認定医	3 人
日本がん治療認定医機構がん治療認定医	6 人
日本心療内科学会登録指導医	1 人
日本カプセル内視鏡学会指導医	1 人
日本カプセル内視鏡学会認定医	2 人
日本消化管学会胃腸科指導医	6 人
日本消化管学会胃腸科専門医	9 人
日本消化管学会胃腸科認定医	0 人
日本ヘリコバクター学会 H. pylori (ピロリ菌) 感染症認定医	4 人
日本食道学会食道科認定医	2 人
日本消化器がん検診学会指導医	1 人
日本消化器がん検診学会総合認定医	2 人
日本東洋医学会漢方専門医	1 人
日本心身医学会・日本心療内科学会合同心療内科専門医制度委員会心療内科専門医	2 人
日本臨床免疫学会免疫療法認定医	1 人

#### 6) 入院疾患名 (重要な疾患名を記載)

肝腫瘍 (肝癌含む)	114 人 (12.6%)
悪性リンパ腫	102 人 (11.3%)
胃癌	95 人 (10.5%)
大腸腫瘍 (癌、腺腫、ポリープ含む)	79 人 ( 8.7%)
膵腫瘍 (膵癌含む)	58 人 ( 6.4%)
消化管出血 (上部、下部)	39 人 ( 4.3%)
急性白血病 (骨髄性、リンパ性)	39 人 ( 4.3%)
多発性骨髄腫	39 人 ( 4.3%)
食道癌	32 人 ( 3.5%)
胆管炎 (胆管癌含む)	26 人 ( 2.9%)
膠原病 (関節リウマチ含む)	25 人 ( 2.8%)
クローン病	23 人 ( 2.5%)
十二指腸腫瘍 (十二指腸癌含む)	18 人 ( 2.0%)
胃・食道静脈瘤	11 人 ( 1.2%)
膵炎	9 人 ( 1.0%)
潰瘍性大腸炎	8 人 ( 0.9%)
胆のう疾患 (胆のう癌含む)	7 人 ( 0.8%)
食道アカラシア	7 人 ( 0.8%)
その他	175 人 (19.3%)
総 数	906 人
死亡数 (剖検例)	23 人 ( 10例)
担当医師人数	22 人 / 日

#### 7) 【特殊検査例、特殊治療例、手術例、特殊手術例】 ア. 特殊検査例

項 目	例 数
①上部消化管内視鏡検査	2,294
②下部消化管内視鏡検査	1,680
③腹部超音波検査	800
④骨髄穿刺・生検	230
⑤内視鏡的逆行性膵胆管造影検査	162
⑥カプセル内視鏡検査 (小腸、大腸)	124
⑦超音波内視鏡下穿刺吸引術	93
⑧超音波内視鏡検査	77
⑨食道内圧測定検査	25
⑩ダブルバルーン小腸内視鏡検査	14

#### ウ. 主な手術例

項 目	例 数
①内視鏡的大腸ポリープ粘膜切除術	225
②内視鏡的止血術	112
③内視鏡的胃・十二指腸粘膜下層剥離術	98
④内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	46
⑤内視鏡的食道・胃静脈瘤硬化術、 内視鏡的消化管拡張術	33
⑥内視鏡的胃瘻造設術	27
⑦内視鏡的食道粘膜下層剥離術	26
⑧経口内視鏡的筋層切開術	11
⑨肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼術	10
⑩経皮的胆管ドレナージ	2

#### エ. 特殊手術例 (先進医療など)

項 目	例 数
① LECS (腹腔鏡・内視鏡合同手術)	7

#### 【診療に係る総合評価及び今後の課題】

##### 1) 診療に係る総合評価

消化器内科診療において近年の内視鏡機器や技術の進歩により、治療内視鏡 (内視鏡的大腸ポリープ切除術、内視鏡的胃・大腸粘膜下層剥離術) の充実に加えて、超音波内視鏡下生検による遺伝子パネル検査数の増加、食道アカラシアに対する内視鏡的治療である経口内視鏡的筋層切開術や消化器外科との共同

によるLECS（腹腔鏡・内視鏡合同手術）など難易度の高い治療数が昨年度からさらに増加し過去最高となった。COVID-19感染症対策として、術者の感染防護対策、患者様の体調管理表、入院前コロナ検査実施等の感染対策を強化し、年間を通じて高い検査水準を維持することができた。内視鏡的大腸ポリープ切除術、内視鏡的食道・胃・大腸粘膜下層剥離術、遺伝性疾患などの小児の全身麻酔下内視鏡検査、内視鏡的拡張術、カプセル内視鏡等も高い水準を維持できた。引き続き、他科との連携による内視鏡検査、治療数の増加に対応していく方針である。

血液疾患では、既存の全身化学療法に加えて分子標的製剤の使用や末梢血幹細胞移植併用治療による予後改善が反映され、骨髓検査数や外来化学療法治療者数が年々増加傾向にある。他院からの紹介患者が多いため連携を強化し地域医療に重要な役割を果たしている。

指定難病に関しては、炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）・膠原病（全身性エリテマトーデス、皮膚筋炎、強皮症等）の紹介患者数は依然として多く、新規の分子標的治療数（ウステキヌマブ、ベリムマブ、ベドリズマブ等）も増加している。

本年度の剖検数は10件（剖検率43.5%）と当院における剖検総数17例のほぼ6割を占めており、内科研修拠点病院としての役割に大いに貢献している。附属中学校の学校健診、医学部学生のB型肝炎ワクチン接種、弘前大学のワクチン接種者の副反応対応など弘前大学における附属病院の役割に加えて、肝疾患相談センターの活動やむつ下北やつがる地域における寄附金講座による地域医療にも大きく貢献している。院内のスクリーニングで肝炎が疑われた場合や針刺し事故（肝炎ウイルス、HIVウイルス）にも当科で対応している。

## 2) 今後の課題

入院患者数、外来患者数ともに増加し、COVID-19流行前の水準を超えている。病床

稼働率は77.7%と目標の85%をやや下回ったが、入院患者の看護必要度からみた重症比率は43%と高く、診療報酬額も29.2億円と昨年度を約3.6億円上回る結果となった。特殊検査治療件数・分子標的治療件数の増加もその要因の一つと考えられ、今後も高度医療の提供を推進する。しかし、逆紹介率が7.3%と低率であることから、今後更に地域医療機関との連携を強化の上、疾患や病態を考慮しつつ、逆紹介を推進していく必要がある。COVID-19感染拡大の長期化により、院内感染予防として行ってきた内視鏡検査を含む外来検査・入院治療予定者に対する体調管理チェックの徹底、緊急入院患者に対するCOVID-19迅速検査及び画像検査の実施と病床調整を継続することで、院内感染を防ぐことができている。高度医療の提供維持とCOVID-19感染対策の両立を目標として、今後も現在の感染対策を継続する予定である。内科外来処置室の負担軽減及び感染予防対策としての自宅での下部消化管内視鏡検査前処置施行件数と分子標的治療の外来化学療法室利用件数は増加しており、更に推進していく方針である。高額医療費抑制のため、特に生物学的製剤を含む分子標的薬剤の後発品使用率の向上をはかり、特殊検査や高難度治療へ対応するために更なる効率化と多病院との連携強化を進めつつ、外来スタッフ増員・システムの充実化を引き続き求めていく。また、当科として治験や医師主導臨床試験の計画、特定臨床研究の実施を推進し、基礎研究とも連動しながら科研費獲得等、外部資金獲得に努めていく方針である。次年度もCOVID-19感染対策・関連施設との連携をより強化し、高度な治療を安心して多くの患者に提供できる体制を維持していく所存である。